



# 「都路を元気に」 みよこ じ 学生主体の地域おこし



(学生団体)  
福島大学災害ボランティアセンター  
活動企画班ディレクター

ごとう たか あき  
**後藤 誠智さん (4年)**

福島大学災害ボランティアセンターでは、仮設住宅で生活する人々の支援や、子どもたちのサポート、海岸清掃などのボランティア活動を行っています。その中のひとつが「田村市都路町の地域おこし」。後藤さんを中心に5年計画として、1年目は地域の皆さんとの関係づくり、2年目は畑と古民家を借りて農作物を育てたり、水路づくりをしたりしています。

平成28年から始めた地域おこしですが、もともと畑をやるうちは思っていたいなかったと木幡さんは語ります。「避難指示が解除された区域の応援を目的に、先輩たちが都路を元気にしよう」と計画を練っていました。たまたま畑を貸してくださる方がいたので、そこをフィールドラウンディングの拠点にした地域おこしがスタートしました「学生たちは都路の人た



障がい福祉サービス事業所コパン (会津若松市)

コパンオリジナルの小物や似顔絵もいただきました

コパンでは、皆さんが創意工夫しながらパン作りをされていたり、畑で一生懸命に野菜作りに励んでいらっしやいました。懇談のときにいただいたケーキは、やさしい甘さでとてもおいしく、心を込めて丁寧に作られていて、気持ちが伝わってきました。

皆さんのひたむきに取り組む姿勢と満面の笑みに、元気をいただきました、心温まる時間を過ごしました。

第一回は、四月に「チャレンジふくしま訪問」で伺ったコパンの様子をお伝えします。



▼ 都路の皆さんに元気になってもらうため、交流サロン活動も定期的に開催しています



先輩たちの思いを引き継いで、古民家の改修や都路独自のブランド開発も行っています！



▲ 毎週1回、ボランティアセンターのメンバーが交替で農作業をします

右: 建築担当 木幡 将之さん(2年)  
左: ディレクター補佐 桑折 綾音さん(2年)

年齢・性別不問 ボランティア募集中！  
(学生団体) 福島大学  
災害ボランティアセンター  
詳しくはこちら  
福島大学 ボランティア村づくり  
検索

ちを師匠と仰ぎ、慣れない農作業に取り組み始めたのです。  
しかしメンバーが集まらない、やり方がわからないなどの苦労も多かったのだとか。それでも活動を続けてこられたのは、楽しさや達成感の方が大きかったから。「最初はたくさんいる学生の中の1人と思われていましたが、名前を覚えて話しかけてもらえるようになったときは本当にうれしかったです」そう笑顔で話すのは桑折さん。学生たちにとって、都路の皆さんは自分の祖父母のような存在となっていました。  
都路の皆さんの「失敗してもいいから、とにかくやってみよう」という言葉に押され、今年はより多くの農作物を育てたいという学生たち。都路の知名度を上げることで、プロジェクト終了後も多くの人に訪れてもらうことが何よりの願いです。



外から見た福島のイトココ教えます

ふくしま

二重マル

ブログやインスタグラムで福島の情報を発信しているよ

ゾーイ・ヴィンセントさん (イギリス出身)

国外や県外出身の人から見た福島を知る新コーナー。  
第一回は、県観光物産交流協会海外誘客専門員として活動するゾーイさんです。

**福島人は自分の街に詳しくて説明上手！**

福島人は街の歴史や文化にすごく詳しくて、私がわかるように教えてください。

今まで行った中では、会津若松市のさざえ堂や喜多市市の長床ながとこが好きですね。歴史を感じる場所がたくさんあります。日本語が話せない外国の人にも、安心して福島に来てもらえるよう、情報をたくさん発信していきたいですね。



いわき市の小川諏訪神社でお花見